

MUSASHINO Vol. 94 for TOMORROW

巻頭

歌舞伎 この面白きもの

渡辺 保

海外音楽事情

芸術家に求められる

想像力と個性

ロバート・ダヴィドヴィッチ



July 2010
vol.94



歌舞伎

この面白きもの

演劇評論家
放送大学客員教授
渡辺保



渡辺保 Tamotsu Watanabe

1936年東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、東宝入社。'65年『歌舞伎に女優を』で評論デビュー。企画室長を経て東宝退社。以後多数の大学にて教鞭を執り、現在、放送大学客員教授。'00年11月紫綬褒章受章。著書は『女形の運命』（芸術選奨新人賞受賞）、『娘道成寺』（読売文学賞受賞）、『四代目市川團十郎』（芸術選奨文部大臣賞受賞）など多数。

ついこの間、若いビジネスマンたちの集まりで歌舞伎の話をした時、こういう声を聞いた。

「向こうの人はみんな日本のことを聞きたがる。歌舞伎のこと、能や文楽のこと。日本人ならば誰でも知っていると思っているんですよ。ところが私たちはアメリカやヨーロッパのことは知っているも歌舞伎のことなんて知らない。恥ずかしかった」

これでいいのだろうか。

いいはずがない。歌舞伎は日本の重要文化財として世界無形遺産にも指定されている日本独自の演劇だからである。

今年は、その象徴ともいべき歌舞伎座が建替えのために閉場して、そのニュースが流れたから多分耳にされた方も多いただろう。しかしみなさんは歌舞伎についてどのくらい御存知だろうか。単に知識として知るだけでなく、一歩進めて歌舞伎のどこが面白いか、それを知ってほしい。歌舞伎は決してわかりにくいものではないし、実に面白い芝居なのである。そこで、この巻頭に歌舞伎の面白さについて書きたいと思う。

私は話を具体的にするために一つの作品を例に選んだ。

「人情噺文七元結」。明治の人情噺の名人三遊亭円朝の作った話を榎戸賢二が歌舞伎に脚色した作品。現に

七月も赤坂のACTシアターで勘三郎主演で上演される。

歌舞伎の数多い作品の中で、なんで地味なこの作品を選んだかということ、歌舞伎をあまり知らない人にもわかりやすい作品だからである。

それでは幕を開けよう。

長兵衛の人生

この芝居の主演左官(壁塗りの職人)の長兵衛は、大晦日の夜、隅田川の河べりで身投げをしようとした青年を助けた。

事情を聞くと、青年は商家の手代。御屋敷から集金した五十両を帰る途中の両国橋でスリに盗られたのだという。油断した自分の責任、お店の主人に申し訳ないから死ぬ。

長兵衛は事故だから仕方がないじゃないかという。親たちにそういってお店に言い訳をしてもらったらばいい。何も若い身空で死ぬほどのことはないじゃないか。イエエ親はいないんです。それじゃあ、親戚の伯父さんとか、身元保証人とかだれかいそうなものじゃないか。

だれもいない。青年は天涯孤独。孤児だった。

長兵衛は思わず懐をおさえた。長兵衛の懐中にはちょうど金額も同じ五十両の金がある。バクチ好きの長兵衛は、女房と一人娘の三人の長屋住まい。ウデのいい職人にもかかわらず生来のバクチ好きのために、借金でこの年の瀬がどうにも越せない。見かねた一人娘が新吉原の妓楼角海老へ身を売ろうとした。事情を聞いて気の毒に思った角海老の女将が五十両を貸してくれて、長兵衛に向っていうには、いまは店へは出さない、来年の三月までに長兵衛が金を返せば娘は返す。もし返せなければ娘は女郎になるしかない。

長兵衛はその約束をして五十両の

金を貰って家へ帰るその途中である。

五十両の金がなければ目の前の青年は死ぬしかない。人の命は金じゃ買えない。江戸っ子の長兵衛は、いつそこの懐の五十両を青年にやろうと思う。そうすれば青年は助かる。青年は助かるが一人娘は一生泥水の底に沈むしかない。

途方にくれた長兵衛が見るともなく川の向うを見る。対岸には遠く江戸の町々の軒を列ねた民家の灯が見える。

歌舞伎には「灯入りの遠見」という装置がある。ここがその装置である。「遠見」というのは遠景という意味で、「灯入り」というのは、その遠景に書き込んだ家の灯りのついたところを切り抜いて後から灯火(照明)をあてることをいう。今は電気だが、昔はむろん蠟燭の灯をあてた。こうするとあたかも小さな家々の灯影がうかぶ。「灯入りの遠見」というのは、いかにも歌舞伎らしいしゃれた名前だが、何軒かの家に灯りの入った風情が美しい。

勘三郎のうまさ

思案にくれた長兵衛が、その灯入りの遠見をフツと見る。

今日は大晦日。どこの家でも家族が集まって年越しをしている。一家団欒。

しかし青年には帰るべき家も、家族もない。

十七代目勘三郎の長兵衛は、ここが独特のうまさであった。

たしかに長兵衛には家もあれば、家族もいる。しかし今、その家族が崩壊しようとしている。この五十両を失えば、暮の借金を返して商売道具をとりかえすことも壁の原料を仕入れることも出来ない。商売が出来なければ来年三月に金を返すことが出来ない。金が返せなければ娘は泥沼に沈むしかない。家庭は崩壊する

だろう。

しかし勘三郎は次の瞬間に、その灯入りの遠見を見ながらフツと遠くを見るような表情をする。

実は長兵衛も孤児だったのだ。

そこでパッと長兵衛が決心する。ここがうまい。金を青年にやる。青年は当然辞退する。汚い財布に入った五十両を勘三郎は投げつけるようにして走る。花道を走りながら勘三郎は叫ぶ。

「死んじゃいけねえよッ」。

揚幕へ入ってまで勘三郎の声がきこえて、見ていて思わず目頭が熱くなった。今でもその声が私の耳に残っている。

なんで勘三郎はこんなにうまいのだろう。長兵衛が孤児であるという設定は、この芝居のズツと前にほんのちょっと出てくるだけだし、あの決心をするところも決して説明的に表情を変えたりするわけではない。パッとやって、それがどんな観客の身にもしみじみとわかる。

どうしてなのか。

そして私は勘三郎の自伝(『やっばり役者』)を思い出してアツと思った。

勘三郎も孤児同然だったのである。むろん勘三郎は三代中村歌六の三男。初代吉右衛門、三代目時蔵の実弟。れっきとした親も兄弟もいる。家庭

もある。決して孤児ではない。しかし勘三郎の母は父歌六晩年の愛人であり、父を亡くした勘三郎初舞台の口上は、兄吉右衛門が子供ほど年の離れた勘三郎を観客に引き合わせて、「私の子供ではなく弟でございます」といって観客の微笑を誘った。あまりに年の離れた弟。播磨屋一門の中でも勘三郎の居場所がはっきりしていたわけではない。若い頃の勘三郎はそのことで大いに悩み、屈折した心情を持っていたらしい。

そうしたらば、ある時、勘三郎の尊敬してしかも後にその娘婿にまでなった名優六代目菊五郎が勘三郎にソツとささやいたという。

「気にするな、おれも妾の子だよ」

たしかに六代目菊五郎も、五代目菊五郎の正妻の子ではなかった。

勘三郎も孤児でこそなかったが、それと同様のさびしい体験をしている。遠く灯入りの遠見を眺めた長兵衛の気持ちがよくわかるのだろう。

勘三郎の演じた長兵衛の初演は五代目菊五郎で、それが六代目菊五郎から勘三郎と二代目松緑に伝わった。松緑の長兵衛も当り芸であったが、ここの一場に限っていえば松緑よりも勘三郎の方がすぐれていた。

今の勘三郎は、この父十七代目の長兵衛をついでいる。



▲『人情噺文七元結』より17代目勘三郎(左)と八十助(現三津五郎) 写真/松竹株式会社

歌舞伎の面白さ

ところで歌舞伎の持つ面白さは一口ではなかなか説明しがたいし、まして「人情断文七元結」のそれも本所石切場の一場で説明しつくすことはできないだろう。にもかかわらずここには歌舞伎の基本的な面白さがおおよそ四点揃っているように私には思える。

第一に、歌舞伎はまず人間のドラマだということ。歌舞伎というと人はとかく絢爛豪華なスペクタクルを想像するし、それはそれで間違いではない。夢のような舞台、現実とは違う別世界。たとえば「助六」を見ればそこには売春という悲惨で、暗い世界とはとても思えない豪華な世界がひろがって私たちを楽しませてくれる。それはその通りであるが、この芝居のなかに出てくる新吉原の妓楼の風景は、より現実に近く、廓の明暗を描き出している。

そのなかでやはり大事なのは、これが人間のドラマだということである。その点では、歌舞伎はシェイク

スピアやチャーホフや、そして井上ひさしの芝居と少しもかわりがない。長兵衛の、広い江戸という都市のただなかでの孤児としての人生。まともな腕のいい職人である反面、バクチをやめられない気の弱さ。そういうものがここには実にリアルに描かれている。長兵衛を描いた三遊亭円朝はチャーホフの同時代人であり、私たちとも決して無縁ではない。

第二、しかし長兵衛は、「桜の園」や「三人姉妹」と同じく近代的な人間ではあるが、描かれ方は同じではない。ここでは個人の性格よりも江戸っ子の、それも職人の「気質」というものが問題である。もし長兵衛が青年に金をやろうかどうしようかと迷ったあの時に現代人であるあなただったらどうしただろうか。娘を売った金で青年を救おうとは思わないだろう。それは慈善とか人助けとかの問題ではない。人の命は金にはかえられない。それは事実だとしても、それ以上に長兵衛の行為は、気質の問題なのである。それは今日の日本人からはほとんど失われてしまった「江戸っ子」の気質であり、日本人の



▲17代目勘三郎
写真/松竹株式会社

心のふるさととでもいうものを感じさせる。

第三、孤児という設定がうかび上がった時に私は思わず長兵衛の人生と勘三郎の人生を重ね合わせた。この現代劇では考えられない見方が、実は歌舞伎の演劇的な手法の面白さなのである。

歌舞伎はドラマを見ると同時に役者を見る演劇である。

むろん人間ドラマも大事だが、同時に役者も大事である。勘三郎の長兵衛を見るのであって、長兵衛の勘三郎を見るのではない。その証拠に、あの「死んじゃいけねえよッ」といながら花道を走っていく勘三郎には「中村屋ッ」という大向うのかけ声が

平成 21 年度音楽学部卒業生による新人演奏会

平成 22 年 4 月 26 日 津田ホール



田中真理子(ヴァイオリン)



古川英和(ファゴット)



前島彩香(クラリネット)



松田由貴(メゾ・ソプラノ)



飯塚茉莉子(ソプラノ)



吉岡舞子(ピアノ)



小島加奈子(ピアノ)

降るようであった。

「中村屋」は勘三郎の屋号。大向うがそう叫ぶのは、そこにいるのが勘三郎だという認識があるからだろう。

もっとわかりやすくいえば女形である。

玉三郎が「娘道成寺」を踊る。「大和屋ッ」という玉三郎の屋号がかかる。舞台にいるのはまさしく白拍子花子という女性。ところが観客は「花子ッ」といわずに「大和屋ッ」という。それはその女性が実は大和屋坂東玉三郎という男性であることを観客が知っているから。つまり観客は、坂東玉三郎という女形(男性)と芝居のなかの白拍子花子(女性)とを同時に見ている。見ていながらある瞬間、玉三郎が女そのもの、現実の女性以上に、女性という存在そのものになる奇跡的な瞬間を見る。この奇跡的な瞬間こそ「芸」という方法論の面白さである。

名人円朝は左官の長兵衛を演じて長兵衛その人だった。ということは、初演の五代目菊五郎が証言している。勘三郎もまた長兵衛その人であったからこそ、あの一瞬、なんの説明もな

く長兵衛の体に孤児のさびしさがうかんだ。

それは一方で勘三郎自身の人生に及び、そして五代目菊五郎から六代目菊五郎の伝統に及んだ。歌舞伎はさながら何千年前の古寺や遺跡を、いまここによみがえらせるようなものなのである。

しかし、その一方で勘三郎が長兵衛その人になったからこそ、背景の「灯入りの遠見」は単なる背景ではなく、舞台の上で生きた現実となって、一軒一軒の家の家族団欒を私に思わせた。役者の芸が衣裳や大道具や小道具に生命を与える奇跡がそこにおきた。

芸の「色気」

第四、最後にどうしても私が触れたいと思うのは、勘三郎の芸が分厚い、豊かな色彩を持っていたということである。

長兵衛の姿は、貧乏ったらしく、髪も乱れて、この寒空に女房の着物を借りた、だらしない恰好である。

どこにも美しさも色気もない。にもかかわらずそこには実に豊かなものがあふれている。それは青年の孤独、長兵衛の孤独、それとは対照的な家族団欒の町家の灯入りの遠見。そして勘三郎の人生の孤独、そういうものが何層にも重なり合って一つの滋味を生み出しているからであった。

これを円熟した芸の「色気」という。歌舞伎はどんな貧しいなりをしていようと、汚い姿の人間をやっても、そこに「色気」がなければいけない。これが歌舞伎の面白さなのである。

「死んじゃいけねえヨッ」。

その勘三郎の声が何十年もたった今でも私の耳に残っているのは、その色気のためであった。

以上四点。

「文七元結」には、それはそれなりの歌舞伎の魅力がかくされている。

有名な藤原定家の歌に

見渡せば花も紅葉もなかりけり
浦の苫屋の秋の夕暮れ

「文七元結」にも「花」も「紅葉」もない。しかし「花」と「紅葉」はその背後に深く隠されているのだ。

平成 21 年度大学院修士課程修了生による新人演奏会

平成 22 年 5 月 17 日 津田ホール



三浦麻葉(ハープ)



杉山由紀(メゾ・ソプラノ)



大西宇宙(バリトン)



飯島正徳(ピアノ)



阿久澤政行(ピアノ)



芸術家に求められる 想像力と個性

●ロバート・ダヴィドヴィッチ教授(ヴァイオリン)●



ロバート・ダヴィドヴィッチ

Robert Davidovici

ルーマニア生まれ。ジュリアード音楽院にてガラミアンに師事。カーネギーホール国際アメリカ音楽コンクール第1位受賞。以後幅広いレパートリーで世界的に演奏活動を行っている。大阪フィルハーモニー交響楽団、バンクーバー交響楽団等のコンサートマスターも務めた。フロリダ国際大学教授。武蔵野音楽大学客員教授。

ヴァイオリン・ソリスト、コンサート・マスター、芸術監督、大学教授など、多彩な分野で世界を舞台に活躍されているダヴィドヴィッチ先生。本学とは長年にわたる親交があり、本年度も客員教授として来日なされた先生に、師であるガラミアンのこと、世界の音楽事情、また武蔵野の印象や音大生・指導者へのアドバイスなどを伺いました。

—— 著名なヴァイオリン教師であるI.ガラミアンの下でのレッスンはいかがでしたか？

ガラミアンと出会ったのは、ジュリアード音楽院の大学院の時でした。彼の下でレッスンを受けるかたわら、学生のレッスンや弦楽カルテットの助手をさせていただきながら、7年間を過ごしました。彼は、偉大なる教師、教育学者、心理学者であると同時にユーモアに溢れる人物でした。

例えば、私が「ビブラートの速度が遅すぎるのではないだろうか」と悩んでいた時のことです。先生はそれを聴くと、「全く問題ないです」とおっしゃってくださいました。一瞬にして自信を取り戻すことができたのも束の間、突然、「いも虫には100本の足があるらしいけれど、前進するのに必要なのは60本で、残りの40本は隠しておくらしいよ。進む方向

は、鼻でかぎわけているようだ」と全く関係のない話をなさるのです。何がなんだかかわからず、思わず先生の顔をのぞきこんでしまったのですが、これは、先生一流のウィットに富んだ例え話だったのです。つまり、ビブラートをいくら速くしても、大ホールでは本来の働きをしない。むしろゆっくりとしたビブラートの方が効果的であるということ、思いもよらないけれど的確な例え話を用いて、私の気持ちをひきつけて教えてくださいました。

また、アメリカに渡って最初の年、ニューヨーク西73番街にあった彼のアパートでのレッスンは、たいてい朝の約束でした。しかも、私の前に必ず同じ学生が来ていました。レッスン室から漏れ聞こえてくるその素晴らしい演奏から、私も練習のコツを獲得していくことができました。数週間後に気付いたのですが、学生と思っていたのは、なんとパールマンでした。これも、恐らく、ガラミアンの意図するところだったのでしょうか。生徒に合った方策を巧みに使い分ける指導法は実に見事でした。また、彼の回りには才能にあふれる音楽家たちが集まっていました。彼が招いてくださったサマースクール等では、いまだに親交のあるヨーヨー・マをはじめ、たくさんの音楽家に出会うことができました。



▲ケマル・ゲキチ本学客員教授との共演

—— 世界で活躍なさっている先生が、最近気付いた音楽事情を聞かせてください。

いまだに、音楽を勉強しようとする若者は、アメリカよりもヨーロッパに行く傾向がありますね。そもそも、音楽が生まれたのはヨーロッパですから当然でしょう。しかし、アメリカにはインテリジェント・プログラムが多く用意されていることに、もう少し注目していただきたいものです。

数週間前のことですが、アラン・ギルバート指揮、NYフィルハーモニーの演奏によるリゲティのオペラ

が上演されました。一般的に、このような比較的新しい演目については、30%位しか予約がないと言われているのですが、なんと完売でした。これまでベートーヴェンやブラームスを聴いていた人たちが、何か新しいものを聴きたいと思うようになっていのです。サンフランシスコでは、マイケル・ティルソン・トーマスの珍しいプログラムに多くの聴衆が集まる。明らかに何かが変わりつつあるのです。そうであれば、ヨーロッパのものばかりではなく、さまざまな芸術を教育の場面でも積極的にとりあげていかなければなりませんよね。

そうは言っても、新しいものが必ずしも良いわけではありません。日本には、古い庭園や建築物が昔のまま保存されていますね。例えば、東京だけを見ても、明治神宮、新宿御苑、後樂園、六義園など、どれも私の大好きな場所ですが、1988年の初来日以来、何も変わらずに残っています。実は、古い歴史をもつコンサート・ホールには、何か魔法のようなものがあるのです。私は長年、カーネギー・ホールで演奏してきています



が、やはりそれを感じます。必ずしも最新のものでなくても、また大都市のものでなくても、古いものの中に、何か素敵な魔法が宿っていることをたびたび実感しています。日本も例外ではありませんから、これまで通り古くから残っているものを大切にしていってほしいものです。

—— 先生は、お一人で何役も務めていらっしゃるんですね。ソリスト、オーケストラ団員、コンサート・マスター、芸術監督、アーティスト・イン・レジデンス、室内楽協会の創設者、大



▲ アイザック・スターンと

・音・楽・余・話・コンクール いまむかし 今昔

かつて私がモスクワ音楽院の学生であった頃、コンクールの是非について盛んに論議が交わされた。大多数がコンクール肯定派であったものの、競争に集中しすぎると音楽の本質を見失うという否定的意見も聞かれた。

実は、音楽の「競い合い」は太古の昔から存在していた。古くはギリシャ神話の世界で、オルフェウスが得意の竖琴で怪物シレーヌの歌に挑戦し勝利を得た。また中世には、後にワーグナーの楽劇の題材ともなった吟遊詩人たちの「歌合戦」が行われていた。

時代下って17世紀には、ローマで、ヘンデルとスカルラッチが鍵盤楽器

演奏の腕を競ったエピソードが伝えられている。この時、審査員は「ヘンデルは最高のオルガン奏者、そしてスカルラッチは最高のチェンバロ奏者である」という結論に達した。

さらに18世紀には、モーツァルトとクレメンティもウィーン宮廷でピアノの腕を競い合い、いわば引き分けの結果を得、次いで19世紀には、一世を風靡した二人のピアニスト、リストとタールベルクが競演。これまた甲乙つけ難い二名に対し、審査を務めた侯爵夫人によって下された『タールベルクは世界一のピアニスト、リストは世界にまたとないピアニスト』との評決は、

けだし名言として語り継がれている。

さて今や、世界中いたる所でコンクールが行われ、イタリアなどではコンクールの数が町の数を上回るとすら言われる。この時代にあって、コンクールを全面否定することはもはや不可能であろう。芸術の新境地は、いつの時代にも人々が互いに切磋琢磨することで開拓されてきたのである。

(訳：重松万里子)

コンスタンティン・ガネフ
(本学客員教授)

学教授、等々。このマルチ・タスクをこなす秘訣を聞かせてください。

まず、神様に1日30時間くださいと願うこと。それでも足りないくらいですけれどね。大切なことは、質の充実を求めることでしょう。例えば、オーストラリアで勉強していた若かりし頃、8～10時間練習していました。しかし、練習の仕方を心得ている今は、4時間で同じだけの効果が期待できます。ですから、音楽とは直接関係のない時間を捻出することができ、11人の孫の祖父であることも楽しめるのです。

忙しい人ほど、時間を有効に使わなければなりません。ほら、ナポレオンが7人から同時に話を聴くことができた、というあの集中力こそが大切なのだと思います。誰もがわかっているけれど、実行するのは容易で

はありませんね。そもそも、私は音楽の演奏が好きで好きでたまらないので、そのくらいのエネルギーは持ち合わせているのです。

—— フロリダ国際大学と日本の学生たちについて、印象の違いはありますか？

恐らく、アメリカの大学(世界各地から学生が来ていますが)との違いというより、文化的背景の違いがもたらすものかもしれませんが、明らかに異なります。

日本の学生たちは、概して、とてもひたむきで真面目です。それは、とても大切なことです。が、ともする



▲ 附属音楽教室でのレッスン風景

と過度になることがあるように思います。型に閉じこもらず、想像力～imagination～を自由に働かせることができるよう、あたかも植物に水をあげるように、教師は見守り支援していかなければならないのです。ですから、その時、間違ふことを恐れさせてはいけません。美しい響き

音楽の万華鏡 12

絵画が奏でる シンフォニー

モーリッツ・フォン・シュヴィント(1809-71)の『シンフォニー』は、祭壇画のように縦長で、4部分に区切られた大型の油彩画である。ウィーン生まれのシュヴィントは青年時代にレーナウやシュパウンと知り合い、その紹介でシューベルトの友人となった。さらに、劇作家グリルバルツァーの知遇も得ている。ロマン主義文芸の挿絵画家として名を成したシュヴィントは、芸術全般に関心を持ち、ピアノやヴァイオリンを弾きこなし、合唱団で歌を楽しんだりもしたが、この音楽への愛は彼の絵画にも反映されていく。そして1828年に画家コルネリウスに師事するためにミュンヘンに移住すると、ウィーン時代のシューベルトを中心とし

た集い「シューベルトティアード」の想い出を描くようになった。

この『シンフォニー』は、ベートーヴェンの《合唱幻想曲》(op.80)を聴いた印象をもとに、音楽の間の壁面を飾る絵画として1852年に制作された。ベートーヴェンの作品は3部分構成であるが、この絵画は交響曲の構成にならった4部分から成る。そして最下段の家庭演奏会の中に、シュヴィントはウィーン時代の仲間たちを描き込んだ。画面左端でシューベルト、フォーグル、ショーバーが歌い、画面中央奥の指揮者はラッハナー、ピアノを弾く女性の譜めくりをしているのが画家自身である。しかし、この絵の主題は前景中央に描かれたソプラノ歌手(ヘッツェンエッカー)と若い男との愛のロマンスである。初めての出会い、森の散歩での再会、仮面舞踏会での愛の告白、若いカップルの新婚旅行への旅立ちというように、物語は最下段から上方へ進んでいく。このシュヴィントの代表作では、ベートーヴェンの作品の印象、ウィーンの「シューベルトティアード」の想い出、ソ



プラノ歌手の結婚による引退記念、さらにはラッハナーのミュンヘン宮廷歌劇場音楽総監督就任祝いという様々な思いが、シンフォニーの語源のように「共に鳴り響いて」いるのである。

寺本まり子(本学音楽学教授)

で演奏することばかりを求めるよりも、何にもまして想像力を求めなければならないのです。本来、芸術家は創造的でなければならないのですし、また、個性的でなければならないはずです。芸術、すなわち音楽を通して、何かを語っていくのですから当然ですね。その物語でコミュニケーションをとるわけです。もちろんその為には、精神的な成長も不可欠と思われまます。

—— 武蔵野で学ぶ学生へのアドバイスをお聞かせください。

およそ20年前に初来日した頃感じていたのは、当時の入間キャンパスの学生達は今よりももう少し闊達で、江古田キャンパス生になると落ち着いてくるという印象でした。でも今は、江古田の学生であっても、以前より自由で陽気になっているのではないのでしょうか。日本の社会そのものが、そうなっているのでしょうか。

先程からお話ししてきたように、「想像力」「個性」そして「チャンスをとらえること」がキーとなるでしょう。学生自身のレベルや集中力、学生と教師の関係などさまざまな要素が絡むので端的にはまとめられませんが、やはり「想像力」が何にも優先されるでしょう。演奏する側だけでなく、聴衆にも「想像力」は必要とされているのです。演奏家が語りかけてくることを受けとめ、双方向でやりとりを行うのですから。

練習は必ずしも完璧を保証してくれません。良い練習が完璧な結果をもたらしてくれるのです。その良い練習は、一生をかけて追究するものだと思います。私もまだその途にいるのです。

—— 教師へのアドバイスをお願いします。

まず子どもには好奇心を持たせることです。「やらなくてはならない」のではなく、「やりたい」ことは何時間でも持続できるのです。例えばインターネットでグーグルの検索を夢中でしている時は、何時間でもパソコンの前に座っていることができますよね。

どうか、知らず知らずのうちに子どもを押しつぶしてしまうことのないように気をつけてください。そして、子どもの好奇心を少しずつ少しずつ誘ってあげてください。

私のことと言えば、幼少期は、祖国であるルーマニアで普通小学校に通学しながら1日に6時間半練習し、レッスンにも通い、10歳でコンクールに挑戦していました。大学時代を過ごしたオーストラリアでは、多くのコンクールに挑戦していくことになり、それはアメリカでの大学院、その後の私につながっていきます。つまり、幼い頃の「好奇心」が16、17才頃には「認知」されたことにより、具体的な「動機づけ」となったからこそ切り開いてくることができた道のりだったのだらうと思います。

従って、教師のすべき事は、正しい音程、楽譜の通りに演奏させることだけではなく、「想像力」をひらめかせてあげることが重要であると確信しています。

(訳:森田恭子)



●表紙の顔



栗山文昭さん

島根県出身。島根大学教育学部特設音楽科卒業。合唱指揮を田中信昭、高階正光氏に師事。二期会合唱団、東京混声合唱団で研鑽を積み、現在15の合唱団を有する「栗友会」の音楽監督及び指揮者として活躍されています。

全日本合唱コンクールにおいては、これまで32の金賞と3回のコンクール大賞を受賞する他、海外においてもスペイン・トロサ国際合唱コンクール(1994)、イタリア・アレツォでのヨーロッパ・グランプリ合唱コンクール(1995)で東洋に初めてのグランプリをもたらしました。またイタリア・ボローニャで開催された第4回マリエレ・ヴェントレ国際合唱指揮者コンクール2007の審査員を務めました。

さらには、世界各国の国際合唱フェスティバルや文化交流事業での招待演奏を行うなど、日本の合唱の実力を世界に広め、また日本の現代作曲家の作品を紹介する役割を担って精力的に活動を続けています。

現在、武蔵野音楽大学教授。

【今後の音楽活動】

- ◆ 9月24日
合唱団のふらん演奏会/
第一生命ホール
- ◆ 11月6・7日
コロ・フェスタ2010 in 松本
- ◆ 12月10日
慶應義塾大学混声合唱団楽友会
演奏会/杉並公会堂 他

オーケストラとの共演予定

- (コーラスマスターとして)
- ◆ 7月24・25日
新日本フィル
ブルームス「ネーニエ」
ブルックナー「テ・デウム」
指揮:クリスチャン・アルミンク
 - ◆ 8月19～22日
草津夏期国際音楽アカデミー&
フェスティバル
指揮:イェールク・エーヴァルト・デーラー
 - ◆ 12月18日
サイトウ・キネンオーケストラ
ニューヨーク公演/カーネギーホール
ブリテン「戦争レクイエム」
指揮:小澤征爾 他

入間キャンパスは彫刻の森

～武蔵野音楽大学附属高等学校卒業生から寄贈された作品たち～



① 第1期生／1976年卒
「音楽への敬意」
日高頼子作
(強化プラスチック)

校舎の脇、散策路の傍ら、バッハザールのロビーなど、武蔵野音楽大学入間キャンパスのあちらこちらで目につく数多くの彫刻作品。これらは、毎年巣立っていく附属高校の生徒が、卒業記念として学校に寄贈したものです。寄贈は1976年の第1期生から毎年1基ずつ続いており、現在その数は35。「音楽への敬意」「イカルス」「とびたいガルダーのように」といったタイトルのもと、実力派の彫刻家た

ちの手により、若々しい芸術への想い、情熱がさまざまなカタチで表現されています。

これら以外にも、ラヴェル像、バッハ像など外国の公的機関や音楽大学から贈られた音楽家の彫像なども点在しており、素晴らしい作品がちりばめられた入間キャンパスは、周囲の自然と相まってさながら“彫刻の森”の趣。勉強やレッスンの合間に、こうした作品を歩いて見て回るのもまた一興です。



② 第2期生／1977年卒
「WARP」
田中康二郎作
(石彫)

③ 第3期生／1978年卒
「グベラの子供」細井良雄作
(石彫)



⑤ 第5期生／1980年卒
「緑のベンチ」竹道 久作
(石彫)



⑥ 第6期生／1981年卒
「羽化の音」
江見高志作 (石彫)



⑦ 第7期生／1982年卒
「WING AND WING」
虎尾 祐作 (石彫)

④ 第4期生／1979年卒
「イカルス」
丸山 隆作 (石彫)



⑧ 第8期生／1983年卒
「想起」岩下恭子作
(石彫)



⑨ 第9期生／1984年卒
「邂逅」丸山富之作
(石彫)



⑪ 第11期生／1986年卒
「流れの記憶」
岩下恭子作 (石彫)

⑫ 第12期生／1987年卒
「ひなた」菱山裕子作
(石彫)

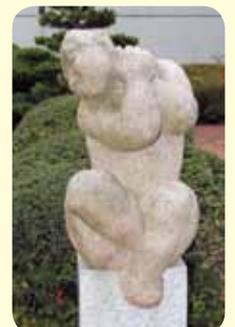


⑬ 第13期生／1988年卒
「月を見る女」
川崎光広作 (石彫)



⑭ 第14期生／1989年卒
「ヌー」内堀公靖作 (石彫)

⑮ 第15期生／1990年卒
「大地に生きる人・夏」
細井良雄作 (石彫)



⑯ 第16期生／1991年卒
「回帰の憶い」
渡辺一宏作 (石彫)



17 第17期生 / 1992年卒
「記憶」安田明長作 (石彫)



18 第18期生 / 1993年卒
「悠 時の流れ」高畑輝康作 (石彫)



21 第21期生 / 1996年卒
「たびだち」岡村謹史作 (石彫)



23 第23期生 / 1998年卒
「風標」玉川寿晴作 (石彫)



19 第19期生 / 1994年卒
「祈るかたち」植草永生作 (石彫)



20 第20期生 / 1995年卒
「母性 まるいかたち」豊田晴彦作 (石彫)



22 第22期生 / 1997年卒
「門出」龍野 隆作 (木彫)



24 第24期生 / 1999年卒
「遠い空」古川正之作 (石彫)



25 第25期生 / 2000年卒
「カーニバル」松橋真紀子作 (石彫)



26 第26期生 / 2001年卒
「アルカデア」岡田純子作 (石彫)

27 第27期生 / 2002年卒
「胚胎」英 せり子作 (石彫)



28 第28期生 / 2003年卒
「女性座像」土井満治作 (石彫)



29 第29期生 / 2004年卒
「元亀」市川明廣作 (石彫)



30 第30期生 / 2005年卒
「とびたいガルダーのように」細井良雄作 (木彫)



31 第31期生 / 2006年卒
「惟」豊田晴彦作 (石彫)



32 第32期生 / 2007年卒
「声」宮澤光造作 (石彫)



33 第33期生 / 2008年卒
「想」市川兼章作 (ブロンズ)



34 第34期生 / 2009年卒
「花 信 風」漆山昌志作 (石彫)



35 第35期生 / 2010年卒
「ふわり」市川明廣作 (石彫)

楽しく実り多い 春の学園行事

武蔵野音楽大学、同附属高等学校、幼稚園では、本年度も全国各地から若さ溢れる新入生諸君や園児たちを迎え、それぞれ春の行事が賑やかに始まりました。

大学では、恒例の新入生歓迎会が開かれ、教員を囲んだクラス交流会やセレモニー&パーティーが催され、今春、大学、大学院を卒業した若い先輩たちによる歓迎演奏会も行われて、新入生諸君は互いに親睦を深め大学生活への希望を膨らませた有意義な一日となりました。

附属高校では、若葉が映える入間キャンパス内のグラウンドで体育祭が開催され、熱い応援合戦が繰り広げられる中、各クラス一丸となって綱引きや大縄とびなどの競技にのぞみました。また、5月26日から29日にかけて、2年生の修学旅行が行われ

ました。兵庫では、人と防災未来センターを訪れ阪神・淡路大震災について学び、続いて古典芸能の淡路人形浄瑠璃を、また陶板名画美術館といわれる大塚国際美術館では、世界の名画1,000余点を鑑賞しました。うずしお観潮では自然の雄大さを感じ、さらには、大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンでのアトラクション体験、京都での三味線・舞踊の実習と盛りだくさん。普段味わえない貴重な経験が一杯詰まった充実した旅行となりました。1、3年生は、飯能・名栗川沿いのせせらぎキャンプ場に出かけ、さ

まざまなメニューを競い飯盒炊爨を楽しみました。

一方、3つの附属幼稚園では、園児たちが春の遠足に行ってきました。こども動物自然公園ではかわいい動物たちとの触れ合いを楽しみ、遊園地ではジェットコースターやアスレチックに挑戦。園児たちはお父さんやお母さん、たくさんのお友だちと一緒に楽しいひと時を過ごして、満足いっぱいの様子でした。

附属音楽教室 エクセレンス・コース コンサート

武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室には、将来演奏家・音楽家を目指す才能ある児童・生徒を育成するための「エクセレンス・コース」があります。

去る3月13日(土)、コース初めての試みとして、生徒たちによる室内楽のコンサートが行われました。会場は江古田キャンパス、モーツァルトホール。ピアノ科と弦楽器科の在

室生十数名が、モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン、メンデルスゾーンによる室内楽作品(2台ピアノおよびピアノ・トリオ)の数々を演奏しました。6歳から高校生までの出演者それぞれが、立派なホールでの出演に興奮気味。生徒同士あるいは共演の先生を交えて見事なアンサンブルを披露し、その熱演に惜しめない拍手



が送られました。

終了後は「アンサンブルの楽しさが伝わってきた」「それぞれが質の高い演奏をしていることに感動した」などの感想が沢山寄せられました。

平成23年度入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学音楽学部第1年次、武蔵野音楽大学附属高等学校の平成23年度入学試験要項は、本学江古田キャンパスで取り扱っています。

要項は無料で配付しますが、郵送ご希望の場合は、氏名、住所、電話番号、および大学、高校の別を明記し、送料の実費分(大学390円・高校240円)の郵便切手を同封して下記、広報企画室宛にご請求ください。なお、夏期受験講習会受講の方には、講習期間中に配付します。

【お問い合わせ・請求先】武蔵野音楽学園 広報企画室
〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1 TEL.03-3992-1125 学園のホームページ、携帯サイトからも請求ができます。 <http://www.musashino-music.ac.jp/> 携帯サイト <http://musaon.jp/>

平成22年度 同窓会全国総会のお知らせ

平成22年度武蔵野音楽大学同窓会全国総会が、来る8月5日(木)午後6時より、東京都文京区「椿山荘」にて開催されます。母校創立81年目の元氣な一歩にしたいと思います。お誘い合わせの上ぜひご来会ください。

春期公開講座シリーズ & 新人演奏会

学園の新年度が始まり、例年になく遅い桜の開花と同時に、平成22年度の公開講座シリーズが開幕しました。

6月3日、米国ルーサーカレッジ・コンサートバンドの来日演奏会が、入間キャンパスバウハザールで開催され



ました。このバンドは、アメリカ国内で、最も古くからコンサートツアー活動を始め、130余年の歴史を誇る米国有数のコンサートバンドです。今回は、かつて武蔵野音楽大学の客員教授として本学のウィンドアンサンブルの指導にあたった同大学のフレデリック・ナイリーン教授の指揮により、オリジナルの曲の間に伝統のマーチを組み合わせた楽しいプログラムで会場を沸かせました。

6月9日には、本学客員教授のクルト・グントナー (Vn.)、クレメンス・ドル (Vc.)、ドル・恵理子 (Pf.) 三氏によるトリオ演奏会が、ベートーヴェンホールで開催されました。ブラームスのピアノ三重奏曲 第2番、シューベルト



のピアノ三重奏曲「ノットゥルノ」等、重厚なプログラムを深みのある音色で格調高く披露しました。

また、本学同窓会主催の平成21年度卒業生による新人演奏会が、従来の大学学部卒業生、同大学院修士課程了生に、今年は新たに学部ヴィルトゥオーソ学科の卒業生による新人演奏会が加わり、津田ホールでそれぞれ開催されました。これまでの研鑽の成果を存分に発揮し今後の活動が期待される熱演に、会場から温かい拍手が送られました。(この新人演奏会の様子は、本号と次号で紹介します)

平成23年度から 大学別科を再開

平成23年度から、大学別科の募集を再開します。音楽の実技レッスン(個人指導)と基礎的な関連科目(音楽理論、西洋音楽史)を学修し、その向

上を図ることを目的とします。

入学資格は、高等学校卒業以上で、音楽の実技および知識のレベルアップを目指す幅広い年齢層を対象とし、入学定員は50名です。

詳細は、7月中旬に発行される募集要項をご参照ください。要項をご

希望の方は、武蔵野音楽学園広報企画室(TEL.03-3992-1125)または学園ホームページ、携帯サイトにてお申し込みください。

ホームページ:
<http://www.musashino-music.ac.jp/>
携帯サイト:<http://musaon.jp/>

本学が(財)大学基準協会の大学基準にも適合

武蔵野音楽大学が平成20年度に認証評価機関(財)日本高等教育評価機構の認証評価を受審し、大学評価基準を満たしていると認定されたことは MUSASHINO for TOMORROW Vol.90(平成21年7月)ですすでお知らせしました。その成果をもとに、平成21年6月、(財)大学基準協会に

対し、武蔵野音楽大学の正会員資格の継続について申請を行いました。正会員資格は、大学基準協会の大学基準に適合していることが条件とされます。この度本学は、審査の結果その基準に適合していると判定され、正会員資格の継続が承認されました。

二つの認証評価機関から認定また

は適合の評価を受けたことは本学の大きな自信であり、これによりさらなる発展への着実な一歩を踏み出すことができました。

日本高等教育
評価機構



2008.4-2015.3

大学基準協会



平成22年度 教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、平成21年度から「免許状更新講習」を開講しています。この講習では、小学校または中学校・高等学校の免許状の更新に必要な必修領域12時間と選択領域18時間、合計30時間を開講します。

講習期間		会場
①必修領域(12時間)	8/1・2 の2日間	江古田
②選択領域(18時間)	8/3～5 の3日間	キャンパス

申込受付期間 7/1～7/16(消印)

◎要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室(TEL.03-3992-1125)またはホームページ、携帯サイト(アドレスは裏表紙参照)にてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)

武蔵野音楽学園創立80周年記念 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、創立80周年を記念して、福井直秋記念奨学基金、演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々からご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。 学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、平成22年2月6日から5月24日までの間にご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号に掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきます。何卒ご了承ください。

【同窓生】 今獅々祥子様 遠藤怜子様 大平るみ子様 小山芳子様 勝見むつ子様 川島せつ子様 佐藤雅美様 篠田幸子様 平塚さおり様 降旗スミエ様 牧嶋和世様 矢作裕衣子様 李宜蓉様 同窓会岩手県支部様 同窓会沖縄県支部様 同窓会兵庫県支部様 **【在学生ご父母】** 田口久雄様 林正弘様 宮之原せつみ様 **【役員・教職員・一般・他】** 浅野しのぶ様 井家上真知子様 井上幸恵様 今井香苗様 遠藤光子様 菅沼綾子様 高野典子様 田口久仁子様 多田直子様 千蔵八郎様 山内みどり様 吉川修様 渡邊公実子様 (他に匿名を希望される方19名)

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

(前号までの未掲載分、順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)

コンクール・オーディション名	部門	詳細	氏名	学年・専攻
第10回 スクリャーピン国際ピアノコンクール(フランス)	30歳以下の部門	第1位入賞	富岡 武史	平成21年大学卒業ピアノ専攻 本大学院修士課程1年次在学
第10回 ヴィエトリ・スル・マレー -アマルフィー国際ピアノコンクール(イタリア)	カテゴリーE	第3位入賞	手嶋 沙織	平成20年大学卒業ピアノ専攻
平成21年度文部科学大臣優秀教員表彰		文部科学大臣優秀教員表彰受賞	川邊 直美	平成5年大学卒業ピアノ専攻
平成22年度 文化庁新進芸術家海外研修制度		研修員(専門分野:コレペティール)としてイタリアへ留学	近藤 広志	平成2年大学卒業ピアノ専攻 本大学院修士課程修了
奏楽堂日本歌曲コンクール 第21回	歌唱部門	第1位入賞	松尾 みどり	昭和50年大学卒業声楽専攻 本大学院修士課程修了
	歌唱部門	入選	金川 睦美	昭和61年大学卒業声楽専攻
PMF2010アカデミー・オーディション	PMFシンガーズ	合格(2010年7月~8月 PMF主催オペラ《ラ・ボエーム》 ロドルフォ役にて出演予定)	小笠原 一規	平成15年大学卒業声楽専攻
第15回 びわ湖国際フルートコンクール	一般部門	入選、オーディエンス賞受賞	堀内 貴子	平成12年大学卒業フルート専攻
第29回 飯塚新人音楽コンクール	声楽部門	入選	横山 典子	平成19年大学卒業声楽専攻
財団法人練馬区文化振興協会 第25回 新人演奏会出演者オーディション	声楽部門	最優秀賞受賞	杉山 由紀	平成20年大学卒業声楽専攻 本大学院修士課程修了
	木管楽器部門	最優秀賞受賞	米倉 森	大学4年次在学クラリネット専攻
平成21年度 札幌市民芸術祭 新人音楽会	声楽部門	札幌市民芸術祭大賞受賞	土谷 香織	平成16年大学卒業声楽専攻 本大学院修士課程修了
第7回 北関東ピアノ・オーディション	連弾部門	グランプリ受賞	矢野 元子	昭和60年大学卒業音楽教育学科ピアノ専攻
第22回 ハイメスコンクール	声楽部門	第2位入賞	土谷 香織	平成16年大学卒業声楽専攻 本大学院修士課程修了
第1回 全日本ピアノオーディション2009	連弾部門	銅賞受賞(金、銀賞なし)	矢野 元子	昭和60年大学卒業音楽教育学科ピアノ専攻
第12回 九州音楽コンクール	ピアノ部門 大学生クラス	銅賞受賞	橋爪 貴美	平成21年大学卒業ピアノ専攻 本大学院修士課程1年次在学
第12回 “万里の長城杯”国際音楽コンクール	声楽部門 大学の部	第2位入賞(1位なし)	波佐間 成美	大学4年次在学声楽専攻
	ピアノ部門 大学の部	第3位入賞	宮崎 梨咲	大学3年次在学ピアノ専攻 本高校卒
	ピアノ部門 大学の部	第5位入賞	水鳥 智栄子	大学1年次在学ピアノ専攻
	ピアノ部門 一般Bの部	第5位入賞	瀬戸 章子	平成7年大学卒業ピアノ専攻 本高校卒 本特修科修了
	ピアノ部門 一般Bの部	優秀賞受賞	松田 薫子	平成10年大学卒業ピアノ専攻
	管楽器部門 大学の部	第4位入賞(1、3位なし)	晝間 亜希子	大学3年次在学フルート専攻
管楽器部門 一般Aの部	第4位入賞	辻 和子	平成17年大学卒業フルート専攻 本大学院修士課程修了	
第18回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	大学生の部 木管楽器部門	奨励賞受賞	金子 咲良	大学3年次在学フルート専攻
第17回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	大学生の部 ピアノ部門	審査員特別賞受賞	渡部 史織	大学3年次在学ピアノ専攻
第14回 ベトロフピアノコンクール	大学・一般部門	審査員賞受賞	菅井 美貴	平成20年大学卒業ピアノ専攻 本大学院修士課程2年次在学
第1回 ジュラ・キシユ国際ピアノコンクール	大学・一般部門	審査員賞受賞	伊藤 瞳	大学3年次在学ピアノ専攻
第1回 レディーのための「東京サミット」 音楽コンクール	A-1部門	奨励賞受賞	中里 浩子	大学4年次在学フルート専攻
第44回 TIAA全日本クラシック 音楽コンサートオーディション		奨励賞受賞	加賀谷 巧	大学1年次在学マリンバ専攻
第5回 東京芸術センター記念ピアノコンクール		入選	金子 淳	平成21年大学卒業ピアノ専攻 本大学院修士課程2年次在学
第19回 日本クラシック音楽コンクール 全国大会	ピアノ部門 大学男子の部	入選	立石 将章	大学3年次在学ピアノ専攻
第37回 家永ピアノ・オーディション		合格	菅井 美貴	平成20年大学卒業ピアノ専攻 本大学院修士課程2年次在学
		合格	加藤 菜々日	大学2年次在学ピアノ専攻
第46回 東京国際芸術協会新人演奏会オーディション	ピアノ部門	合格	八代 香苗	大学4年次在学ピアノ専攻
日本打楽器協会主催 第26回 打楽器新人演奏会		出演	中島 有紀	平成22年大学卒業打楽器専攻 本大学院修士課程1年次在学
日本劇作家協会東海支部「劇VII」		彦一賞受賞	嶋崎 雄斗	大学4年次在学マリンバ専攻
第7回 草加市演奏家協会 クラシック音楽ジュニアコンクール	E部門【高校生】	第2位入賞	山本 己太郎	附属江古田音楽教室在室 埼玉県立草加南高校2年生
第18回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	中学生の部 ピアノ部門	第4位入賞(1位なし)	石川 愛	附属人間音楽教室在室 狭山市立柏原中学校2年生

平成22年度10月1日までの公開講座・演奏会のお知らせ

ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル 曲目=ベートーヴェン=リスト:交響曲 第5番 ハ短調「運命」より/フランク:前奏曲、コラールとフーガ/プロコフィエフ:ソナタ 第7番 変ロ長調 Op.83 他	7月 1日(木) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会 指揮=リチャード・K.ハンセン 曲目=2010年度全日本吹奏楽コンクール課題曲より 他	7月 6日(火) 18:30 宝山ホール(鹿児島県文化センター) 7月 8日(木) 18:30 北九州芸術劇場 大ホール(福岡県) 7月 16日(金) 18:30 東京オペラシティ コンサートホール	一般¥1,500/学生¥1,000(全席自由) 一般¥1,500/学生¥1,000(全席自由) ¥1,500(全席指定)
武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会 指揮=クルト・グントナー 曲目=チャイコフスキー:弦楽セレナード ハ長調 Op.48 他	7月 9日(金) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ 世界の名教授たちによるスペシャル・コンサート		
イリヤ・イーティン ピアノ・リサイタル 曲目=シューベルト:ピアノ・ソナタ 第18番 ト長調「幻想」Op.78 D 894/ラフマニノフ:「前奏曲」Op.3、Op.23、Op.32より	7月 22日(木) 18:00 ベートーヴェンホール(江古田)	¥2,000(全席自由)
ウルフ・ヘルシャー(Vn.) & アルヌルフ・フォン・アルニム(Pf.) デュオ・リサイタル 曲目=モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ ヘ長調 KV377 7月26日(日) 18:00 ベートーヴェンホール(江古田) シチュエリン:無伴奏ヴァイオリンのための「エコー・ソナタ」/シューマン:ヴァイオリン・ソナタ 第2番 二短調 Op.121 他	7月 26日(日) 18:00 ベートーヴェンホール(江古田)	¥2,000(全席自由)
ピアノ音楽セミナー 講師=ナターリヤ・トゥルーリ テーマ=ピアノ奏法に不可欠な要素	7月 24日(土) 18:00 モーツァルトホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
ステファン・マクラウド バス・バリトン・リサイタル ピアノ=子安ゆかり 曲目=ベートーヴェン:遙かなる恋人に寄す Op.98/ヴォルフ:ミケランジェロの3つの詩 他	9月 2日(木) 18:30 モーツァルトホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
バーバラ・ボニー声楽公開レッスン ピアノ・通訳=三ツ石潤司 出演者=杉山由紀(大学院修了)、込山由貴子(大学院2年)、波佐間成美(大学院1年)	9月 5日(日) 15:00 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会 指揮=北原幸男 ピアノ独奏=野上剛(大学4年) 9月9日、12日、13日 青木佑磨(大学3年) 9月8日 曲目=ベルリオーズ:「ローマの謝肉祭」序曲 Op.9 ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op.11/ベルリオーズ:幻想交響曲 Op.14	9月 8日(水) 18:30 バッハザール(入間) 9月 9日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 9月 12日(日) 14:00 香川県県民ホール「アルファあなぶきホール」大ホール 9月 13日(月) 19:00 高知市文化プラザかるぼーと 大ホール	¥1,500(全席指定) ¥1,500(全席指定) 一般¥1,500/小中高¥1,000(全席自由) 一般¥1,500/小中高¥1,000(全席自由)
武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科 在校生と新卒業生によるコンサート お問い合わせ=武蔵野音楽大学附属高等学校:TEL.04-2932-3063	9月 30日(木) 18:30 王子ホール	¥2,000(全席自由)
武蔵野音楽大学室内合唱団演奏会 指揮=ヴィンフリート・トル 独唱=ソプラノ:横山典子、バリトン:谷友博 曲目=フォーレ:レクイエム Op.48 他	10月 1日(金) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)

お問い合わせ ●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108

※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※チケットは武蔵野音楽大学ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/> でも予約ができます。

平成22年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 夏期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込受付期間	会場
音楽大学受験講習会 ※1	第1期 7月28日～7月31日 第2期 8月 2日～8月 5日	7月 1日～7月 14日 (消印) 7月 1日～7月 16日 (消印)	入間 キャンパス
高校音楽科受験講習会	7月28日～7月30日	7月 1日～7月 16日 (消印)	
免許法認定講習	7月25日～8月 5日	7月 1日～7月 14日 (消印)	江古田 キャンパス
社会人のための夏期研修講座 ※2	7月29日～7月31日	7月 1日～7月 16日 (消印)	

※1 平成22年度から夏期大学受験講習会の実施要領を変更しました。「レッスンと学科の両方を受講するコース」「レッスンのみを受講するコース」「学科のみを受講するコース」の3種類のコースで開講します。これにより受講期間や受講料が変更となりますので、詳細は講習会要項でご確認ください。

※2 社会人のための夏期研修講座は、下記のⅠ・Ⅱより各1講座、Ⅲより2講座を選択します。

Ⅰ ●中学生・高校生のためのピアノ指導法 ●声楽指導法(日本歌曲、モーツァルトの三大オペラ、ベルカント唱法)
●編曲法の実際(アンサンブルを編曲するための基礎知識) ●音楽科指導の実際(中学校音楽を中心とした新学習指導要領の理解)

Ⅱ ●小学生のためのピアノ指導法 ●器楽合奏(打楽器アンサンブルの指導法)
●ソルフェージュ(初心者を対象とした指導法) ●教材研究(G.フォーレのピアノ小品)

Ⅲ ●合唱指導 ●講話(西洋音楽と社会、主題の役割) ●カール・オルフの音楽教育 ●個人レッスン(ピアノ、フルート、リコーダー、声楽のうちから1種類を選択) ●パイプオルガンのたのしみ「ペダルテクニック」 ●音楽療法入門 ●楽器学入門(木管楽器の歴史)

※上記の他に開催される演奏会は、受講者全員を対象としています。

※実施日程が昨年と変更となっている講習会があります。詳細は要項でご確認ください。

© 講習会要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室(TEL.03-3992-1125)またはホームページ、携帯サイトにてお申し込みください。

(要項は無料、郵送料は学園が負担します) ホームページ: <http://www.musashino-music.ac.jp/> 携帯サイト: <http://musaon.jp/>

エオリアンハープ ケイス・プロース & Co.製 1836年頃 ロンドン 全長78cm

私たちが「エオリアンハープ」と聞いてまず連想するのは、ショパン作曲ピアノ練習曲集作品25の第1番に付けられた俗称であろう。このタイトルは、ショパン自身の演奏を聴いたシューマンの評に由来するといわれる。この名曲とともにエオリアンハープの名は現在でも多くの人々に浸透しているが、実際にこの楽器がどのようなもので、どのような音を出すのかはあまり知られていない。

エオリアンハープは、張られた弦が風により振動し、自然倍音を発する楽器である。名称はギリシア神話の風神アイオロスの名に由来する。弦は基本的にすべて同音かオクターヴで調弦され、多数の弦が織りなす倍音の響きは、風向きや風力により微妙に変化し、幻想的な雰囲気を醸し出す。ヨーロッパでは古くからこの原理が知られていたが、特に18～19世紀のイギリスの家庭で、窓枠に固定する箱型のエオリアンハープが流行した。

当時のイギリスの住宅には、上下にスライドし開閉する窓が普及していたが、エオリアンハープは、その

ような窓枠の底辺に隙間無く収まるように寸法が決められていた。風は窓の外から楽器の蓋と本体との間を通して室内にそよぎ込み、その際に張られた弦が振動する。イギリスでのエオリアンハープの流行は他の欧州各国にも波及し、さまざまなタイプのものが作られたが、やがて流行の終焉とともに姿を消していった。

風が奏でる楽器は風鈴に代表され、この種のもは世界各地に見られる。そのほかにも自然音を鑑賞する装置として、わが国では水琴窟が有名である。エオリアンハープは近年イギリスやアメリカで復活の兆しがあるというが、自然の奏でる響きに心の安らぎを覚える人々の気持ちは、洋の東西を問わない。

(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)



❖ 目次 ❖

歌舞伎 この面白きもの	1
渡辺 保	
海外音楽事情	5
芸術家に求められる想像力と個性 ロバート・ダヴィドヴィッチ	
音楽余話	6
コンクール 今昔 コンスタンティン・ガネフ	
音楽の万華鏡	7
絵画が奏でるシンフォニー 寺本まり子	
Campus Eye	9
入間キャンパスは彫刻の森	
MUSASHINO NEWS	11
❖ 楽しく実り多い春の学園行事	
❖ 附属音楽教室 エクセレンス・コース コンサート	
❖ 平成23年度 入学試験要項請求について	
❖ 平成22年度 同窓会全国総会のお知らせ	
❖ 春期公開講座シリーズ&新人演奏会	
❖ 平成23年度から大学別科を再開	
❖ 本学が(財)大学基準協会の大学基準にも適合	
❖ 平成22年度 教員免許状更新講習のお知らせ	
❖ 武蔵野音楽学園創立80周年記念 ご寄附をいただいた方々	
❖ 栄冠おめでとう! (コンクール入賞者等)	
❖ 平成22年度10月1日までの公開講座・演奏会のお知らせ	
❖ 平成22年度 夏期講習会のお知らせ	

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖ 発行 ❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2010年7月1日発行 通巻第94号



携帯サイト
<http://musashino.jp/>